

# 中国の工業化と郷鎮企業

— 農工間資源移動と市場形成課程の研究 —

指導 トラン・ヴァン・トウ 教授

国際学研究科国際関係専攻 19742105 銭 永 毅

## 論文目次

序章 工業化の必要性和農工間資源移動	4
第1節 問題意識	4
第2節 研究の方法論	5
第3節 本論文の構成と各章の内容概要	7
第4節 結論と含意	11
第I部 中国の農工関係と郷鎮企業の発展 — 農工間の資源移動と市場形成 —	
第1章 工業化と農工関係 — 労働力と資金の移動	14
第1節 分析の視点	14
第2節 重工業優先発展戦略と資金調達	15
2.1 重工業発展の特徴	15
2.2 重工業発展と貯蓄・投資	16
2.3 重工業発展の資金提供方式	18
2.4 重工業発展と農民の低貯蓄	20
2.5 重工業優先発展と資金配分の問題点	22
2.6 改革後の農工関係の変化	23
第3節 農村と都市間の労働力移動	23
3.1 建国初期の労働力と人口	24
3.2 重工業発展期における農工間の労働移動	25
3.3 労働移動と戸籍制度	27
3.4 重工業・農業の発展と集団化のなかの労働力	29
3.5 改革段階における農村から都市への労働力移動	31
第4節 結語と次の課題	35
第2章 工業化の始動と郷鎮企業の発展過程の特徴	38
第1節 問題意識	38
第2節 二重経済モデル・研究のサーベイ	39
第3節 郷鎮企業の生成と発展形態	41
3.1 郷鎮企業概念	41
3.2 集団性郷鎮企業の生成と位置づけ	42
第4節 郷鎮企業の発展と過剰労働力の吸収	44
4.1 ルイス・モデルと労働移動	44
4.2 「二階層二重経済」と「三元経済構造」	47
4.3 小城鎮の発展と労働力移動	49
第5節 郷鎮企業の発展と農工間の補完関係・資金調達	51
5.1 農工補完関係と兼業形態	51
5.2 農工補完関係と資金移動	54
5.3 郷鎮企業の資金調達	55
5.4 資金移動と郷鎮企業の所有権	56
5.5 郷鎮企業の資金調達と貯蓄・投資	58

第6節 残された課題	61
第3章 中国の市場形成と労働移動 — 郷鎮企業の新しい役割を探って	65
はじめに	65
第1節 理論的分析枠組み	66
1.1 市場経済発達の定義と条件	66
1.2 農工間の労働移動と市場形成：仮説	67
1.3 資料・データについて	69
第2節 農業部門の開発	71
2.1 農業経営体制の改革	71
2.2 土地政策と戸籍制度	72
第3節 社隊企業と市場未発達段階の労働力移動	74
3.1 社隊企業の生成と発展政策	74
3.2 社隊企業の生産活動と労働力移動	78
第4節 市場形成過程における労働力移動	82
4.1 郷鎮企業の発展戦略	82
4.2 生産の社会的分業と労働移動の開始	83
4.3 郷鎮企業労働雇用慣行と在来要素	84
4.4 工業部門のなかの郷鎮工業企業	86
4.5 郷鎮企業の経営面での体制改革と労働市場	91
むすび	97
第4章 中国の市場形成と資金移動 — 郷鎮企業の新しい役割の探究	100
はじめに	100
第1節 理論的分析枠組み	101
1.1 工業化と金融システム	101
1.2 農工間の資金移動と市場形成：仮説	102
第2節 市場未発達段階における資金移動	104
2.1 社隊企業と資金調達政策	104
2.2 社隊企業と農村信用社の関係	105
2.3 社隊企業の発展と資金調達	106
第3節 市場形成過程における資金移動	110
3.1 農村信用社の改革と金融的資金動員	110
3.2 農民の収入・貯蓄増加と投資	112
3.3 郷鎮企業の発展と信用社からの資金供給	115
3.4 農村の在来要素と未発達金融組織	116
3.5 郷鎮企業の発展と信用社の金融機能の整備	118
3.6 企業統治と資金調達	122
3.7 郷鎮「三資」企業の外資投入	125
むすび	127
第Ⅱ部 郷鎮企業の発展と農工間資源移動・市場形成 — 事例研究 —	
第5章 社隊企業から郷鎮企業への発展と労働市場	131
はじめに	131
第1節 郷鎮企業の発展過程と労働移動の総合的分析	133
第2節 市場未発達と社隊企業の労働移動	135
第3節 市場形成と郷鎮企業の発展・労働移動	140
結語	158
第6章 社隊企業から郷鎮企業への発展と資本市場	160
はじめに	160
第1節 郷鎮企業の発展過程と資金移動の総合的分析	160

第2節 市場未発達と社隊企業の資金調達 .....	161
第3節 市場形成と郷鎮企業の発展・資金移動 .....	165
結語 .....	182
終章 農工間資源移動と市場形成：中国経験の理論的含意 .....	184
引用文献 .....	187

## 論文要旨

労働過剰な農業国から出発する経済の発展は、工業部門の拡大、つまり工業化を必要とするが、そのような過程に労働力を中心とする資源（生産要素）が農業部門から工業部門に移動する。ルイス・モデルはそのような農工間資源移動のメカニズムを解明する有名な理論的枠組みである。しかし、このモデルは、暗黙に市場経済の発達を念頭におく分析枠組みであるため、改革過程にあり、市場が未発達または低発達の中国経済のような国に資源がいかに移動できるだろうか、工業部門の企業がそのような条件の下でどのような行動で労働や資本を調達するだろうかという疑問が残る。

本研究はそのような疑問から出発し、農工間資源移動と市場形成過程との関係に焦点を合わせ、また中国の発展過程における郷鎮企業の存在に着目し、1つの理論仮説を提示し、その実証を通じて上記の疑問に答えようとしている。

理論仮説は次のように要約できる。農村に立地する郷鎮企業は規模の小さい初期段階には、市場未発達でも農村内部で労働を調達したり、在来金融で資金を調達したりすることができる。しかし、企業の規模が拡大していくにつれ、市場の発達が必要となる。つまり、生産の社会的分業、流通など物的インフラの整備、市場取引のための法律・制度といった市場経済の諸要素が整備されなければ、農工間の本格的な資源移動と企業規模の拡大が困難である。従って、郷鎮企業の発展、資源の部門間移動が、市場発達との相互関係の中で変化していくと考えられるのである。他方、郷鎮企業の発展・拡大過程は市場の形成をも促進する。つまり、企業の規模拡大とその活動範囲の拡大に伴って製品構造、産業構造が変化すると同時に企業間の連携や資源移動が活発化する。要するに、企業規模が拡大するにつれて、資源移動が伝統的方式から市場取引方式へと変化していくと考えられるのである。

仮説を検証するために、農工間資源移動の変化と中国の市場形成の全過程において、郷鎮企業がどのような行動をとったかを分析する。この分析にあたって労働、資金の需給構造や部門間移動の実態などのマクロデータの整備・分析、既存研究の成果の吟味・参照、制度的変化の跡付けに加えて、江蘇省での現地調査の結果による分析が行われた。これらの実証分析で理論仮説が概ね検証できた。

本研究は、ルイス・モデルの二部門経済発展論に市場形成プロセスも織り込んで理論的枠組みを拡充する必要があることを示した。また、この研究は、労働過剰な農業国の経済発展にとって、市場の育成・発展がいかに重要であるかも示唆している。